

会 議 録

会議の名称	平成24年度 第2回豊中市図書館協議会図書館評価部会		
開催日時	平成25年(2013年)2月16日(土)10時~12時		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	生涯学習推進部 岡町図書館	傍聴者数	7人
公開しなかった理由			
出席者	委員	是山 康代 松田 美和子 青木 朋美 小早川謙一 村上 泰子	
	事務局	羽間生涯学習推進部長 山羽生涯学習推進部次長 堀野岡町図書館長 北風千里図書館長 大原野畑図書館長 木村庄内図書館長 江口岡町図書館副主幹 松井岡町図書館副主幹 川上野畑図書館主査 古森庄内図書館主査 中尾蛭池図書館主査	
	その他		
議題	1. 図書館活動の評価 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成24年度（2012年度）図書館協議会図書館評価部会

日時：平成25年（2013年）2月16日（土）10時～12時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 是山 松田 青木 小早川 村上（部会長）

事務局 羽間 山羽 堀野 大原 北風 木村 江口 川上 古森 中尾 松井

開会

資料確認

前回欠席委員の自己紹介

●部会長

豊中市では原則的に会議を公開しており、本日も数名の方が傍聴に来ておられる。傍聴は10人の定員としているが、希望者が定員を超えた場合、傍聴していただく方の数については、そのときの状況を見ながら、私のほうで判断させていただくということによろしいか。なお、傍聴の方にはアンケートをお願いしている。協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に皆様にもお伝えすべき内容のものについては、ご報告させていただく。

次に会議録については概要というかたちで、発言者については個人名を掲載せず委員とのみ表記することで、よろしくお願ひしたい。また、前回会議録について、とくに皆さんの方から何か修正がなければ、これで確定させていただく。

それでは、前回の資料に基づいて評価を行っていききたいと思うが、前回確認をしたとおり、中項目ごとに検討していきたい。中項目は全部で15項目ある。大項目Ⅰが5項目、大項目Ⅱが10項目。これを120分弱でやっていくと、ひとつあたり約8分でもオーバーしてしまうということになってしまうので、進め方としては全項目見ていくが、その中で特に委員の方々のなかで、ここは重要だ、ここは絶対言っておきたいということについて、まず出していただいて、一巡して時間があるようなら、またその他細かなところについても意見をうかがうように進めていきたい。

今回意見をいただくポイントは、主として図書館の自己評価の視点で抜けているところと、もっとこの項目ではこういう取り組みをした方がいい、というようなことを出していただけると、今後の図書館運営にプラスに作用していくと考える。

まず、大項目Ⅰ「経営・運営・管理状況に関する評価」というところの中項目「1」「図書館として適切な運営がおこなわれているか」から見ていきたい。

主な資料としては、A4サイズの「自己点検評価報告書（案）」という冊子になっているものをみていただくのがわかりやすいかと思う。これと、その他の資料を適宜見ていただきながら、お気づきになった点を出していただきたい。

本日出していただいたものを図書館でまとめて、次回皆さまに整理したものを提示するという運びにしたい。

●部会長

まず、この項目についてだけでなく全体に当てはまるが、今後の取組みという項目があり、その

番号は、課題に対応した番号になっているという意味だと思うが、この中には、すぐにできるようなもの、あるいは3～4年あるいはもう少し時間をかけて行っていくべきもの、あるいはしたいと図書館の方で考えているものが、ここだけに限らず全体に混じっているような印象を受けた。どのくらいのタイムスパンでこの問題を考えているのか、というようなところを少し整理して示した方がよい。

●委員

職員が多くの研修を受講しているが、職員の満足度であるとか、自己成長感みたいなものは測られているのか。それから市民の苦情の窓口、要望の窓口みたいなものは評価指標に入っているのか教えてほしい。

●事務局

市民の声ということで、各図書館にポスト等を設けているが、それについては、評価指標としては入っていない。どう測ったらいいのかわからない。そういう仕組みは、図書館としては持っているが、リーディング項目の指標としては入っていない。もちろん、いただいたご意見を含めて運営改善を図っているが、指標としては表せていないという状況である。

●委員

やはり市民の要望・希望、苦情の窓口というのは、評価のために絶対なければならないものなので、リーディング項目の中になければ、つくらなければいけないのではないかと思います。利用する方の声をしっかり吸い上げるというシステムがなければならないと思うので、ぜひつくってほしい。

●部会長

研修に関しては、研修が何回おこなわれたというようなことは示されているが、研修の成果についてはあまり触れられていない。豊中の図書館では、いろいろと新しい取組みの企画をし、実践をしているわけなので、研修の成果がそういったところにかかされているんだというようなことは、もっと自己評価のなかでもアピールをされて良いのではないかと思います。

●委員

評価するときには、どうしても量的な評価が多くなりがちだが、必ず質的な評価をしてほしい。職員がその研修を受けてどう思っているのか、満足しているのか、もっとこういう研修を受けたいと思っているのかという質的なところを踏まえて、しっかり評価のあり方そのものから考えていただきたい。

●委員

今おっしゃったとおりだと思う。

経営の質を上げることは、一人ひとりの職員の資質を上げることと同じ意味合いを持つ。大事な要素として、力を注いでほしい。

図書館の経営・運営・管理に関わる5項目のうちでは、評価ランクが「2」という項目が3つある。どこに重点をおいていくか、事業を運営していく場合には、全体をまんべんなくということは、な

かなか難しい。人的要素やリソースによって重みをかえていきながらやっていく、どれを重点としてやっていくかということが大事だ。「2」が3つあるうち、3つ全部はなかなか難しい。そこでまず、「2」を「3」に上げていく、あるいは「3」を「4」にしていく、そういう重みづけみたいなものをしっかり考えていただきたい。どれが一番大事で、どれをやらなくてはいかんのかということは、よくよく議論していただく、あるいは上部機関の図書館協議会等でその辺のご指摘などがあると良いと思う。

●部会長

質的な指標の話が出たが、これに関しては、「評価のあり方について」の中には、もう少しいろんな指標が提案されていて、この中でアウトプットとして数的・量的に測れるものの指標が、一覧表になっている。横長のリーディング項目表では、量的な達成度を見ながら、質的な部分を右側にある評価内容で補足されているという風に考えていただくとよい。ただし、評価内容のところで、どれだけ質的な問題に触れているかは、また別の問題である。

「図書館として適切な経営が行われているか」については、このくらいでよいか。

●委員

特に中項目3の「市民参画が図られているか」というところは、課題が漠然としている。これは、数字にはなかなか置き換えられないところだが、全体的に「市民にとって質の高いサービスが提供されているか」についての課題と取組みは具体的に書いてあるのに、「市民参画による運営が図られているか」のところになると、すごく漠然としている。この差はどういうことだろうか。何が課題かをもっと具体的に整理する必要があるのではないか。

●部会長

中項目「3」の話ということだが、全体的な話ということで受け取らせていただきたい。課題の書きぶりが、項目によって違うという指摘で、漠然としているところは、もっと具体的にしてほしいということだ。

それでは、中項目「2」の「市民にとって質の高いサービスが提供されているか」に移る。こちらの評価ランクは「3」で、祝日開館と蔵書の新鮮度の問題、資料の亡失対策に触れている。こちらの項目についてはどうか。

●委員

無断持ち出し防止装置についてだが、逆にないことがめずらしいのではないかと思う。以前高槻に住んでいたが、もちろんあった。あって当たり前と思っていたので、豊中では千里にしかないの、これは早く導入した方が良いと思う。また旅行雑誌など賞味期限切れのものがいつまでも置いてあって、それを見ると整理していないのかと疑念を持ってしまう。古いのをいつまでも置いておく必要はないのではないかと思う。

●部会長

BDSの導入が千里からというのには、何か理由があるのか。

●事務局

まずは効果を見るため試行導入し、効果を見てから全館導入へと段階的に進めるということで、平成20年リニューアルオープンの際に、最初から設置する環境が整いやすかったということで、千里から導入した。効果が現れたことから、全館導入に向けて進めていくところである。

●委員

豊中のなかにもそれぞれ地域特性があると思う。図書館もそれぞれの地域特性を持って、地域の市民にとって質の高いサービスを提供しようとしていると思うが、そのあたりの取組み、今後の展望を聞きたい。

●事務局

図書館には、基本的に皆が求める共通な部分と、地域による特性に応える部分の両方がある。図書館では今、「暮らしの課題解決」支援サービスという形で、例えば千里では、店舗やビジネスマンが多いという立地をふまえて、ビジネス・就労支援とか、野畑では、子育て・DVに関する情報支援、中部では岡町で医療健康情報支援サービス、南部の庄内では、「しょうないREK」という市民との協働の取組みがあり、多文化共生の取組みを行っている。多くの人が共通して図書館に求めるものプラス、地域の特性に応じたコレクションをつくっている。

●委員

入口はたくさん設けられているように思うが、実際の内容はどうかというところが、なかなか測ることができないと感じる。そのへんの評価もしっかりしていただきたいと思う。

●委員

さっき中項目全体の話をしたが、今話題にしている中項目「2」については、中項目のタイトルが「市民にとって質の高いサービスが行われているか」とある。「質の高い」という定義は、されているのか。物事を評価しようとする、前提としてそれを数値的に測る、あるいは何らかの設定をして、それと対比してどうだったかを見る。そこをわかりやすくしないと、全体の中でPDCAのサイクルを回すということになかなかつながっていかない気がする。先ほどお話があった「適切な運営がおこなわれているか」も同じだと思う。「適切」とは何なのか、という部分を明らかにしておくべきで、ここを上位の協議会で定義づけすることが大事なことのよう思う。要は、これに関わる職員が、その目標に向かって、ベクトルを合わせてやっていける、そういう状況をつくるのが、そもそもの大事な部分のよう思う。市民に分かりやすくということもだが、関わっている職員にとってもわかりやすく、今こっちに向かっているぞ、ここまで来ているぞとわかるような部分がほしいと思う。

●事務局

中項目の表現については、難しいところで、「質の高い」とか「適切な」がはっきり何であるのか、これはこうですと申し上げにくい、ただこの評価システムを取り入れる時に、まず図書館のめざす方向性とか図書館の使命・役割は何かというところから議論して、それについて基本目標というのを設けた。前回お配りした1枚ものの資料である。「豊中市立図書館の基本目標」というこ

とが私たちの目指すべき姿であり、それに向かってということである。ただ具体のサービスとの開きがあるので、もう少しわかりやすい何かが必要のかなと思っているところだ。

●委員

おっしゃるとおりだと思う。

できるだけ、かかわる職員がぶれないようにしてほしいなということを言いたい。そういう意味で、図書館協議会の役割はすごく大事で、よろしくお願ひしたいと思う。基本目標が14あるが、これをきちっと定義づけをしていく作業がすごく大事なことだと思う。

●部会長

委員のご要望にどれだけお応えできているかわからないが、少なくともこの評価システムが始まる前の段階で、この提言が行われている。そのなかで、それぞれの指標に関して、それに関わるサービス内容と、それを測るためのアウトプット、それから中間的アウトカムという形で、何を成果と考えるかということが、一応文章の形ではあるが示されている。その文章がどれだけわかりやすいかという問題はあろうかと思うが、それについては必要な範囲で図書館協議会にも提言したいと思うが、こちらもあわせて見ていただきたい。

また、旅行のガイドについて古いものが多いという話があったが、アンケートのコメントにもたくさん出てきたし、そのとおりだと思うが、もうひとつ、中部で医療健康情報の提供をしているという話があったが、それに関してもアンケートを見ていると、非常にニーズは高いということが今回改めてよくわかった。一方で知られていないというところでもかなり高い。しかも使っている人の方の満足度を見ても、あまり高いところに入ってこないという様子だ。まだ始めたばかりだからということはあるのかもしれないが、これだけニーズが高いとわかっているので、少し対策をとっていただきたい。

●委員

平成22年から開始した4地域館の全祝日開館は、2年目になり云々と書いてあるが、利用人数と貸出冊数が書いてあって、それぞれ7%の増加になっていると書かれているが、このことについて現状として満足しているのか、もう少し増やしていきたいのか、そのあたりの評価をどう考えているのか。

●事務局

この部分は、祝日の利用に限って7%の増加ということだが、やはり体感として増えてきたという感覚はあるが、今でも事務室へ電話で「今日開いていますか」という問い合わせはまだ多い状況で、認知が徹底していないのだと思う。もう少し認知度を高め利用につなげたいと考えている。

●委員

若干評価の甘さが気になる。評価するときは、きっちりと成果目標の数値を掲げて、例えば14%を考えているが現在は7%であり、達成度としてはどのくらいであるという風に出すのが本来かと思うので、これで満足しているのか、もう少し上をめざそうとしているのかがわからないと思う。

しっかりと数値目標を出して評価してほしい。

●部会長

中項目「3」「市民参画による運営が図られているか」について。こちらは評価ランク「4」ということである。項目的には、外部評価を実施したというようなこと、それから図書館協議会というようところが上げられている。とくに豊中の場合は、後の具体的なサービスの方でも出てくるが、市民参画ということを非常に重視されているので、この市民感覚による運営という部分は非常に重要だと思う。

●委員

市民参画・市民との協働というところで、どのようなイメージを持っておられるのか。協働イメージについて、参画イメージについて、どんなものを描いているか。

●事務局

豊中市立図書館では市民参画・市民協働の取組みを重視して取り組んでいる。それには、いろいろな段階のものがあり、企画から同じ目線で作り上げていくというものもあるし、あるイベントと一緒にやっていただくというものもある。同じ目線で同じところに向かって、企画から市民の方と一緒に作りあげていくという姿勢と思っている。

●委員

なぜイメージを質問したかというのと、例えば協働参画イメージについて、手と手を結んでいくイメージなのか、小さな歯車と大きな歯車を重ね合わせて大きな力にしていくのか、それともジグソーパズルの抜けているところを市民にポコっとはめていただくというようなイメージ、いろいろなイメージがあるかと思う。市民参画でいろいろな企画もされていると思うが、今からどんどんと協働してやっていかないといけない中で、こういうことをしていきたいんだという大きなものはあるか。今言った3つくらいのイメージの中で、例えば手と手をつなぐものであればこういうものをしていきたい、歯車でぐるっと大きな力を出すということなら、こういう風なことをしていきたいということがあれば、三つ四つお願いしたい。

●事務局

豊中市立図書館として最初の協働の取組みとしては、子ども文庫連絡会との取組みがある。「協働」という言葉が使われる前から、地域の子どものたちの読書環境を整える取組みを、一緒にさせていただいていた。それは今では、豊中市として「子ども読書活動推進計画」という計画を持ってすすめているので、そういう取組みは今後も必要だろうと思っている。

今後ひろげていきたい取組みとしては、後から出てくる高齢者サービス・障害者サービス等で、実際にその方々にサービスが届くよう、身近にいらっしゃる方との協働的なことを、こちらから出向いて、そういったところに図書館も関わって、図書館につなぐとか情報につなぐとか、そういったことが今後必要だと思っている。

●委員

先ほどから私が言っていることだが、イメージできないというのは、定義がしっかりしていない

からという部分があると思う。まずとりあえず現場の方たちが、この基本目標に沿って、我々はこの基本目標を実現しようと思う、例えば市民協働について、我々はこれとこれがとりあえず目標ですよと、きっちり定めていただいて、それを上位の協議会で議論していただいて、きちっと定義付けしていただいたらいいのではないかな。そうしないと、それぞれ皆いろいろな意見が出てくると思うので、評価しようと思うと、やはりそういう作業が大事になってくると思う。くりかえしになるが、みんなにわかりやすい定義付けが前提としてあって、それについて評価が行われるということが大事だと思う。

●部会長

この市民協働というものが何を指すのかは、特に図書館の協議会に長く携わっていると、その中でよく話が出てくるので、今何をしているのかわかるが、こういう評価というものは、やはりなにもわからない方々に対しても、答えていくのものなので、その辺の明確さというのは確かに必要かと思う。

●委員

どちらかという、図書館が企画するという形だけではなく、市民からの提案を受け入れられるというシステムを作っていただきたいと思う。

●部会長

そういう市民からの提案を受け入れるというのは、今までされているか。

●事務局

豊中市として、市民協働提案事業という制度があり、それで成案化した「しょうないREK」も、地域に根付いた事業として行っている。千里コラボでも、そういった提案事業もいただいているので、そこは図書館としても役割を果たしていきたいと思っている。

●部会長

そういうことを実際にやっているんだということも、ひとつの成果だと思うので、しっかり自己評価の中にも含めていただければと思う。

今後の取組みの中にも、図書館協議会と外部評価の話は出てくるが、協働事業自体をどう継続していくのかということは、この中に出てこない。もちろんそれ以外の個別のところに出てきているからということかもしれないが、やはり少しは書いておかないと、まったくそれは考えていないのかという印象をあたえてしまうと思う。

次に中項目「4」に移りたい。「図書館の情報発信・PRは十分になされているか」が評価ランク「2」ということで、アンケートの中でもかなり不十分だという結果も出ていたかと思う。

ひとつ質問をするが、今後の取組みに「マスコミもPRの手段として積極的に活用していく」とあるのは、どういうことを具体的には意味しているのか。

●事務局

主にケーブルTVとかへ、こちらから取り上げてほしいと、少しずつ声かけができるようになって

てきた。FM千里などのラジオやTVなどの媒体を使うという意味である。

●委員

自己評価が「2」になっているが、我々会議所もそうなのだが、なかなか伝えたいことを適切に伝えるのは難しいことだ。自己評価では低い目に見てしまう傾向があると思う。そういう中で、さきほど市民との協働ということがあったが、市民の方にもやってもらうということが大事で、そういう発想から言うと、PR隊みたいなものを市民にやってもらったら良い。利用した人に、あなたPR隊委員になってくださいと言えればいいんじゃないか。それも一つの方法だと思う。いろいろな方法があるのではないか。我々のクライアントは事業所なので、事業所にかかわるPRならば我々もニュースメールとか、WEB上でも発信をしているので、そのへんのお手伝いはできる。したがっていろいろな団体を通じて、PRの依頼をすることも大事なことかと思う。

●部会長

大変具体的な提案をいただいた。

●委員

今後の取組みのなかで、「市民にとって必要な情報を適宜分かりやすく伝えることが出来るよう」と書いてあるが、分かりやすさとか、今後こんな風に図書館が変化していきますよ、こういう風に良くなりますよと伝えていくということなのだろうが、「積極的に」という言葉もあるし、「認知度の低いものについては重点的に」という言葉も出てきて、「啓発及びPR活動に努めていく」となっているのだが、この「分かりやすさ」については、どのようにというのが気になる。どうしても図書館からの発信というと、難しそうというイメージがあるが、分かりやすさについて、教えていただきたい。

●事務局

評価の担当者会の中でも論議があったが、アンケートの結果を見ても、やっているサービスがなかなか伝わっていない。やっていること自体が知られていない。それは「やっていますよ」というPRだけでは不足なのだろうと感じている。具体的な提案としては、図書館の事業を通じて、具体的にこんなことができ、その結果こんな風になりますとか、具体的な中身を見ていただけるような提示とか、そういったことが分かりやすさにつながるのかなと考えている。

●委員

高齢者にとってわかりやすいとか、子どもにとってわかりやすいとか、障害者にとってわかりやすいとか、それぞれの対象者にとってわかりやすいというように、ビジュアル化していくというように、もう少し書かれてあるといいと思った。あまりにもざっくりとしすぎていると感じた。

●委員

今後の取組みについて、漠然とした言葉が多く、漠然としか表現できないのかなと思いながら見ているのだが、特に今後の取組みの二つ目、「サービスの認知度の低いものについて、重点的に啓発及びPR活動に努めていく」と書かれてあるが、アンケートの結果とかこういうのを見ると、本

当に認知度の低いものがはっきりわかってくるが、これを全部いっぺんにというのは不可能に近い。無理だろう。その中でもどれに注目していくとか、どれを重点的にやっていくとか、具体的などころの目標を定めた方向性を持っていかないと、言葉だけは美しいが、実が伴わない評価になってしまう。どれに重点を置くというテーマが絶対に必要だと思う。全てに言えることだが、あまりにも漠然としすぎて、的がぼやけてしまっている印象がある。

それと課題のところに戻るが、「図書館を利用したことが無い市民へのPRが不十分である」というのは、本当に最初の肝心なところで、図書館ではどう考えているのか少しお聞きしたい。

●事務局

そこが一番の重い課題と思っている。いま今後のサービス計画を考える取組みを図書館でしているが、その中でも大きな目標として、まずは数値化できることからということで、登録率をあげることを目指している。40%くらいの市民の方の登録率なので、60%という目標を掲げているいろんな取組みをしていこうと思っている。それには、図書館で待っているだけでは済まない。先ほどもご指摘いただいたように、いろんな方とつながってPRをしていくなどご意見をいただいたが、そういうこともしながら目指したいと考えている。

●委員

図書館利用は義務ではないので、60%になったからやったぞというようなものでもないように思う。必要ない人間にとっては必要ない。本も書店に行けばいっぱいあるので、買えば済むという場合もあると思うので、そんなに頑張ってみんなに来てもらおうということにお金をかけるよりも、新しい本を買うとか、そっちに使われた方がいいんじゃないかと一市民としては思う。

●委員

今おっしゃったお金をかけるという部分については、人が動いたり何かことをおこそうとするとお金はかかる。したがってできるだけなんでもやればいい、できたらそうありがたいが、図書館だって予算があり限られた範囲内でものごとをすすめていく必要がある。したがって、コスト意識というのは持つておく必要があると思う。元に戻るが、最初の「適切な経営が行われているか」というのは、我々からすると、コストパフォーマンスがどうだったかという話になる。やはり行政はコストをなかなか意識しにくい。予算があって、予算を執行する行為はあるが、逆に我々はコストも考えてやってほしい。何でもただでできればいいが、やはりお金がかかるので、限られたなかで優先順位をつけてやっていく。やろうと思ってもできないこともあると思う。それが先ほどから言っている、基本目標をきちんと定義づけして、「これとこれはやりますよ。だけどこれは辛抱してください市民の皆さん。」ということも必要だと思う。それぐらいの意気込みがあつていいと思う。遠慮する必要はないと私は思う。

●部会長

他になければ、次の中項目「5」に行きたい。「その他運営の健全化への対応は図れているか」ということで、リスク管理、個人情報保護、それから評価システムの共有というようなところになっている。

特にないようなので、何かあればまた後ほど時間があれば出していきたい。

以上で大項目Ⅰの「経営・運営・管理状況に関する評価」というところが一応終わった。続いて大項目Ⅱに入っていきたい。「図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価」の10項目のうち、最初が「市民が求める資料や情報を収集し、迅速・的確に提供できるか」というところで、図書館サービスのなかでも中核的な部分かと思う。

●委員

今後の図書館の設置の目的だが、図書館といえば知識を求めて本を借りて返すだけでなく、時代のニーズにあった、去年は「住民生活に光をそそぐ交付金」を使って、さまざまな取組みをされていると思うが、現在であれば少子高齢化の問題では、高齢化の問題に対して図書館がどうあるべきかというようなところは、設置目的の中にどのように組み込まれているか。

●事務局

基本目標としては、まず市民のニーズに対応したサービスということがある。中項目の中では、後ろの方の「7」で「高齢者、障害者および外国人の読書環境づくりをすすめているか」と、大きな課題については、別の項目として立てている。子ども読書活動の取組みや、学校支援もそれぞれが中項目となっている。ここは全体というより、それぞれの課題を中項目にすることで、より細やかな評価ができるようにしている。

●委員

今後、社会資源となっていかなばならないと思うので、そのためにいろいろなニーズに応える多機能な図書館であってほしいと思うので、設置目的のところから少し見直してほしいと思う。

●部会長

この評価の体系では、図書館の設置目的・使命ということに関して、中項目10個の項目が必ずしも並列ということではなくて、ものによってはサービス対象者別のものであったり、サービス内容ごとの課題であったりというものが混じってはいるのだが、設置目的・使命に応じた項目があげられている。

委員から多機能という言葉があったが、この項目中で不足しているのではないかという項目が、具体的におありだろうか。

●委員

できるだけコミュニティの中で、大きな役割を果たしていただければと思う。地域特性もあるだろうし、さまざまな人のさまざまなコミュニティをつくっていく、育てていくことに、協働の視点や市民参画の視点で結びつけていっていただきたい。いろんな市民ニーズを吸い上げるということが大切だと思う。

●部会長

再び中項目「1」に戻るが、「市民が求める資料・情報を収集し、迅速・的確に提供できるか」というところだが、まず新鮮な資料にできるだけ入れ替えていくという課題、WEBを使ったリクエストの利用、レファレンスの問題などを含めて、課題としてとりあげられている。今後の取組み

としては、これについては比較的具体的なサービスなので、書きぶりも具体的になっていると思う。

またあとからでも気づいたことがあれば出していただきたい。

次に中項目「2」に移りたい。こちらは、他の自治体の図書館や大学類縁機関との相互協力がどれくらいすすめられているかというところだ。近隣との広域利用とか、他の自治体や大学との協力などについて触れられている。こちらに関してはいかがだろうか。

●委員

私もこの評価の前に、大学の図書館はどうなっているのかと、情報を仕入れたり実際に行ってみたりした。身近な図書館と大学図書館では、ずいぶん雰囲気が違うなという感想を持った。大学ごとにカラーも違うが、大学図書館の良いところを吸収しようと思っているような部分はあるか。

●事務局

吸収しようというよりも、やはり大学図書館はどちらかといえば専門図書館に近い役割・機能を果たしておられる。公共図書館はもう少し間口の広いサービスということで、公共図書館で手の届かない専門的な知識を得たいと思う人には、最近では大学が開かれて、直接行っていただくこともできるし、図書館を介して紹介状という形でもご利用いただけるので、そういうすみ分けは今後必要不可欠だと考えている。

●委員

すみ分けも大事だし、すみ分けない部分も大事と思う。大学の方も、今では市民に開放していこう、コミュニティを作っていこう、居場所づくりをしようとか、目的を時代のニーズにあわせて変えているのかなと思う。学校図書館や大学図書館などの様々な良いところを吸収して行ってほしい。

●委員

課題のところで、「大学・類縁機関等との連携については、まだ未着手の部分がある」と書いているが、どういう部分が未着手かというところまで書いた方がよい。

●事務局

まだまだ連携でできることがあると思っている。一つの例として、千里コラボでは大阪大学との連携を進めているが、千里ニュータウン関連の論文等多くの地域資料を、公共図書館を窓口として見ていただけるような仕組みができないか、などの取組みをすすめている。それはほんの一例で、まだまだ公共図書館の良いところと、大学の専門分野とをマッチングさせた取組みを今後進めていきたいと考えている。

●委員

アーカイブ事業につながっていく可能性があるということのようだ。そういうことは、今後の取組みに書き加えていいと思う。言葉で伝えることはすごく大事なことなので。

●委員

連携の部分はすごく大事で、お互いの良いところをうまく組み合わせ補い合って、お客様・利用

者のニーズに応じていくということは大事だ。また、アクセスのしやすさも大事になってくる。移動図書館のようなことも一つだが、最近駅ナカストアがヒットしている。駅ナカで買い物をする、通勤途上で買い物ができる。そういう発想で、通勤途上で本が借りられることも、今後あっていいかなと思う。

世の中インターネットの普及でデジタル化もどんどん進んでいるが、それはそれとして、図書館もその部分をカバーしていく必要があるとともに、リアルな部分でのアクセスの向上も大事だ。

●部会長

たぶん今、広域利用でいろんな自治体と連携しているのも、ひとつにはそういうことを考えてのことだろう。

また、大学連携についても、今はもう閲覧だけなら自由に入れる大学図書館も多くなっており、登録すれば借りられるところも増えている。可能であれば、豊中市民が使える近隣の大学図書館の一覧が、HPに掲載されるといいと思う。

それでは、次の中項目3に移りたい。「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多様な情報ニーズに応えているか」は、評価ランク「4」ということで、市内のいろんな公共施設と協力をしながらやっているということだが。

●委員

「4」が「5」になるようがんばってほしい。

●部会長

商工会議所との連携なども、ここに入るのか。

●事務局

ここに入っている。商工会議所には、ビジネス支援サービスをすすめるうえで、担当がいろいろな形でアドバイスをいただいて、大変お世話になっている。

●部会長

具体的には書かれていないが、「関連する庁内各部署や関係機関、各施設との連携」という中に入っているということか。

●委員

固有名詞を入れていただければ。

●部会長

そうしてください。

では次の中項目「4」に移りたい。「ITを活用した図書館サービスの向上を図るとともに市民の情報活用を支援しているか」に関しては、システムのリプレースを契機にして、ITを活用した図書館活動を推進するということが中心で、インターネットの利用やデータベースの利用について触れられている。

●委員

I Tに関わる場所は、これからますます大事になってくるだろうと思う。とくに携帯デバイス、スマホとかタブレット、そこをうまく取り込む。特に今「OtoO」オンライン to オフラインと言って、リアルな店舗に導くために携帯デバイス、スマホを利用した仕組みがどんどん広がっている。デジタルデバイスという問題もあるが、そういう流れはあるから、携帯デバイスを使ったサービスなども今後は取り入れていく必要があるのではないか。ここでは、おそらく館内のデータベースとか館内のシステムがメインになっていると思うが、利用者視点から言うと、これもアクセスのしやすさと同じだが、携帯はモバイルで常に身につけているから、通勤途中少しアクセスして本の在庫があるかどうか、借りられるかどうかはすぐ分かるようにしておくことが必要だ。

●委員

I Tを使える人へのサービスは大事で、便利になることだが、それに加えて、それをさわれない人やさわらない人へのケアという面、そういう人たちでもうまく利用できる方法が同時に必要だと思う。便利さばかり追求してしまうと、取り残される人が絶対出てくるので、そこも忘れないように評価に入れてほしい。

●事務局

今も携帯サイトからは、予約をしていただけるようにしている。

●委員

「次期システムに向けて、ホームページの更新がスムーズにできるよう」と書いてあるということは、今はできていないということだが、できるようにするためには、どのようにすればできるようになると考えているか。

●事務局

ホームページの更新は、それ単独ではなく図書館システム全体のリプレイスと同時に変えることになる。できるだけ今の良さをいかしつつ、さらに便利な機能について、どう追加できるかというところを、「スムーズにできる」という意味合いに含めている。

●委員

ということは、定期的に更新する時期は決まっていないということか。

●事務局

ホームページ更新は随時行っているが、仕組み自体を作りかえるのは、システムの更新時になる。内容自体の追加・更新は随時行っている。

●委員

それはスタッフ・職員がやっているのか。

●事務局

依頼する必要がある場合と、図書館職員がやる場合の両方がある。

●委員

すると、取組みで「システムの検討をすすめ更新頻度をあげ、情報の鮮度を保つよう努める」という具体は、どういうことか。

●事務局

できるだけホームページを通じて、図書館から伝えたいことがたくさんあるので、より見ていただけるように、いつ見ても同じ情報が載っているようなことがないように、見せ方とか更新頻度を上げて鮮度を保つようにしていきたい。

●委員

中項目「4」の記述には、携帯デバイスに関する記述がまったくないので、既にやっているのなら、現状の中で触れるか、課題で活用を促す何か表現を加えることがあった方が良くと思う。先ほど委員がおっしゃったことは、課題の4で「パソコンに不慣れな利用者に対するフォローが必要」と、ここにもちゃんとうたっているなので、これは今後も重要なデバイドの問題と思う。

●部会長

スマートフォンとか携帯情報端末は、これからすごく出てくると思うので、それへの記述は必要かと思う。

例えば今後の取組みの4では、「館内で利用できるインターネット端末増設する」と書いてあるが、それでいいのか、あるいは無線LANで、インターネット接続できる環境を整備するのとどちらがいいのかということが、今後議論になってくると思うので、単に「インターネット端末を増設する」と書かれてしまうと、本当にそれでいいのかと思う。

システムのリプレイスについては、貸出返却システム等を含めた、大きな図書館システムのリプレイスというのが5年に1回あって、それに関してはかなり大きなやり換えになるが、その5年の間まったくさわらないというわけではなくて、随時ここは緊急に直したいというところがあれば、そのメーカーにお願いして直す場合もあるし、可能な範囲で図書館内でも修正を加えるということではよいか。

●委員

5年に1回ということだが、5年に1回というのは適切か。

●事務局

機械自身の耐用年数とか、新しい仕組みに対応するためとかで、大体5年に一度が適切だと思っている。

●委員

コンピュータシステムは、普通リースで設定する。3年とか5年のリースで、その時に入れ替え

るのが大体普通のやり方で、それ以外に大変なバグがあって何か手を加えないといけないという時もあるが、普通は大体そういうサイクルだと思う。

あともう一点部会長がおっしゃったことは私も思っていたことで、館内で利用できるインターネット端末増設も確かに必要かと思うが、皆スマホやタブレットを持っているので、むしろ館内で無料で使えるWi-Fiを用意するのが、今の流れかなと思う。そうすると、持っている人は皆使える、端末はだれかが使っていたら使えない。利便性のことを考えるとWi-Fiは選択肢の一つだと思う。むしろお客さんを呼び込む効果もあると思う。

●事務局

今後は持っておられる方には、それを図書館があえて提供することはないと考えている。ただ先ほども出てきたとおり、パソコンをお持ちでない方もおられるので、情報格差をなくすというためにも、図書館にお越しになればWEB情報を提供できる、そういう需要も図書館にはあると考えている。

●部会長

もう一点システムに関してだが、今後の取組みの中の「次期システム」というのは、大幅な変更を指しているということだが、その時にホームページのことだけに触れるというのは寂しい。もう少しシステム全体の話で、クラウドサービスの導入をどうしていくのかということもあるだろうし、電子書籍などを導入する際にシステムとどう連携していくのかというようなことも含めて、いろいろ大きな取組みの課題があると思うので、そういったところに触れてほしい。

●委員

5年に一回、それはリースでいたしかたないということだが、しかし3年リースもあるということならば、今の時代5年というのは、大変長すぎるように思う。もしも3年という形ができれば、できるだけ短い期間の中で、市民ニーズにあったものにシステム変更ができればと思う。

●委員

理想はそうなのだが、リース期間が短くなればなるほどコストが高くなるので、単に短くすればいいということでもない。

●部会長

次の中項目「5」、「子どもの読書活動を推進しているか」に移る。このあたりからは、対象者別サービスのテーマになる。まずは子ども、評価ランク「3」ということで、かなりたくさんの項目が並んでいるが、こちらに関してはどうか。

●委員

子どもの一番最初は、赤ちゃんへの「えほんはじめまして」だと思うが、「子どもの読書活動を推進しているか」のところは本当に具体的に書かれていて、力の入れ方が伝わってくる。お母さんに絵本の楽しさを子どもさんと共有しませんかという活動が「えほんはじめまして」だと思うが、子育て中のお母さんは、わりとパソコンとかもお使いになって、そこから情報を得るというお母さ

んたちが今は多いと思うので、「えほんはじめまして」の後の、「こんにちはえほん」というリーフレットを作ると同時に、ホームページ上の情報の充実もぜひしてほしい。外に出て、お母さん同士の情報の交換というのもしられるだろうが、そういうのが苦手なお母さんや、外に出られないお母さんもいらっしゃる。そういうお母さんに対しても、ぜひ「えほんはじめまして」でアプローチができたのであれば、ケアを継続していく必要があると思うので、ホームページ上の充実もさらにしてほしい。

●委員

子どものホームページを今日見てきたが、結構細かく親切な作りで良い感じになっていると思ったが、子どもの行事のところでは、七夕の写真がまだ載っている。それからヤングアダルトサービスの取組みの強化とあるが、中学生はたぶん本を読む時間がないと思う。勉強と部活とでいっぱい。そこになかなか本を読む時間をつくるのは、こちらがいくら本を読めと言っても、そういう時間がないというような感じがあるんじゃないかと思う。こちらは読んでほしいけれども、本人たちはそんな余裕はないんじゃないかと思う。

●事務局

図書館としては、小学校の高学年くらいから少し図書館から離れる時期ということで、10代の人たちの読書環境については、いわゆる一冊の本をじっくりと読む読書というより、広く読書をとらえて、そこから必要な情報を得るとか、そういった使い方、実際に図書館でコーナーを設けると、やはりそういう子が立ち寄って上手に情報を得てくれているので、やはり環境整備が必要なんだと感じている。

●委員

表の掲示板を今朝見たが、暗い。表の掲示板で、子どもたちが通った時にも「これいいな」と思えるような情報とか、もっと明るい魅力的なポスターを掲示したらよいのにと思う。

図書館に興味のない人へも関心をひくような、おすすめ本とかおすすめDVDとかの情報とかをポスターとして貼ることなどで、印象が変わるんじゃないかと思う。

●委員

子どもに本を読んでもらうということになると、親の存在がすごく大事だ。家庭環境というか、家庭でそういう環境を作り出すというのが、第一義的に大事だと思う。子どもが本好きになるには、家庭でどうしているかということにすごく影響を受けると思う。子どもに本に親しんでもらうには、親御さんに本好きになってもらう、その姿を見てということが必要だが、それは図書館がやるのかとも思うが。本好きをつくるには、そういう要素が大きいと思う。なかなか本をじっくり読むというのは時間が必要で、教科書を読んで終わりということが多いと思うが、そこを教育都市としての豊中市がどう考えるかということにも関わってくる。その部分は、教育委員会を抱き込んでやっていく必要があり、図書館だけではなかなか前に進みにくいので、そのへんはコラボレーションというか、一緒に連携してすすめていくことが大事になってくる。

●部会長

このあたりになってくると、中項目「6」の「学校・学校図書館への支援と連携を推進しているか」とも関連してくるので、「5」・「6」あわせた形でご意見をいただくことにしたい。

●事務局

公共図書館だけでは解決できないことは多くある。幸いに豊中市では、中学校にも学校司書が配置されており、まずは身近な学校図書館の充実というのが進んでいるので、それとともに公共図書館と学校図書館との連携をすすめる「とよなかブックプラネット事業」として力を入れて取り組んでいる。それは、お互いのすみ分けと連携をふまえた取組みとして行っている。

●委員

教育のことで思い出したが、豊中は吹田に負けている。お母さん同士の会話では、吹田の方が学校の夏休みは短いし、給食が始まるのも早いし、豊中も吹田に負けない魅力的な部分をもっと出さないといけない。転勤してくる人が豊中と吹田どちらにするという時に、豊中はこんなにいいことがあるよというのをアピールすべきだ。吹田では学校司書が配置されているのかわからないが、豊中では中学校にも学校司書の方がいて、いいよとかいうポイントとかをもっと積極的に出してもらったらと思う。母親同士の話では、豊中市は吹田に負けていると、吹田の方が学校の夏休みは短いし、給食が始まるのは早いし、豊中は怠慢というか、「もうちょっとがんばらなあかん」「吹田に住んでおけばよかった」「こんなに近くなのに吹田と豊中では全然違う、吹田の方が学校にも力が入っているし、図書館も開いている時間も長いみたいだし、休みもないと書いてあった。豊中市の職員の研修会とかがあったら、母親達は吹田に住んだ方が良かったという話をよくしているということ伝えておいてほしい。

●委員

今おっしゃった視点というのはすごく大事だと思う。魅力あるまちづくり、住んでみたい街とかが、週刊ダイヤモンドなどによく出ているが、そこに選ばれるというのは、もちろん市全体の行政のことなので、図書館だけのことではないが、隣接している市町村と比べてどうかという視点は、評価するときにはすごく大事だ。まさしく吹田と比べたらどうだとか、こういう話が出ているので、そこはお互い競争関係にある。都市間競争というのはよく言われている。そういう視点からも、評価の中には他市との比較、やりにくいという表現がどこかにあったと思うが、もしも可能ならば共通のスケール・尺度があって、それと比べてどうかという視点も、取り込む必要があると思う。それはまた図書館協議会の議論かと思う。

●部会長

重要なご指摘をいただいたと思う。図書館というものが、その地域の中で、どれだけまちづくりに貢献していけるのかという課題だと思う。そのまちの魅力をアップさせるのにどれだけ貢献できるかというようなところで。ただし、その際に忘れてはいけないのは、図書館というのは一つの単独の自治体の図書館で成立しているものではなくて、他の自治体図書館と常に協力をしながら補完して、やっているわけなので、単に競争してという話ではないところも、忘れてはいけない。そのうえで、魅力的な図書館づくりを行っていただきたい。

●委員

今おっしゃった他市の良いところをとり入れることは当然ながら、とくに子どもの部分に関しては、課題の中で「成長過程に合わせた最適な読書環境」をつくるということが一番にあがっている。読書環境をつくることに関しては、豊中も図書館に関しては非常に長い歴史があり、豊中本来の良いところをもっともっと出していかねばならないのかなと思うが、特に読書環境に関しては、子どもの分野に関して、具体のホスピタリティがそれぞれに必要なと思う。たとえば専門的な司書の問題であるとか、空間デザインの問題、子どもの目線にあったもの、成長発達にあったように整理されているのかとか、それから単にベストセラーを置くだけということではなくて、教育の役に立つ様々な資料があるのかとか、そのへんの総合的なデザイン、子どものための子どもの目線にあったデザイン、設備が必要だと総合的に思うが、ざっくりと「読書環境」という風に書かれてある。そのあたりの目指すところを具体的に教えてほしい。

●事務局

今おっしゃったように「読書環境」という意味は広い意味でとらえている。しかもこれは、図書館の内部だけではなくて、「子ども読書活動推進計画」として市として進めていることで、その一番大きなメリットは、図書館に来館しない子どもの読書環境も含めて、それは小中学校にとどまらず、地域の保育所・幼稚園・子育て支援センター・子ども文庫とか、いろいろな子どもがいる場所に関わる大人の方と、手を取り合って取組んでいく。一番その子の身近なところで、本を楽しむ環境をつくるということが、「読書環境」ととらえている。今おっしゃったような大事な図書館内の視点はもちろんだが、もう少し広く図書館の外でということも含めてとらえている。

●委員

子どもの読書活動を推進する上で、もう少し具体的に書いていただきたい。また、豊中市の図書館の歴史を顧みると、ここはランク「3」では残念で、「4」にも「5」にも上げていただけたらと思う。

●部会長

残り時間も気になってきたので、次の中項目「7」に移る。「高齢者、障害者および外国人の読書環境づくりをすすめているか」、いくつかの対象者が含まれているが、ここに関してはどうか。

高齢者に関しては、環境や要望が非常に多様であるというところで、それぞれのニーズを把握して、満足度を高めるようなサービスを検討していきたいというようなことが述べられている。障害者サービスに関しては、デイジーとかインターネットを活用してサービスを向上させていくというようなことが述べられている。

●委員

高齢者について、図書館での居場所づくりというか、アンケートを見ると、高齢者の方がずっとソファや机を独占してしまって、私達本が読めませんというのが何度か出てくるが、そういったことについて、なんらかの対応が必要だ。今後ますます高齢社会になっていくので、居心地のいい居場所づくりも必要だけれども、他の利用者とうまく共存していく方法も、今後考えていく必要があるのではないかと思う。その点についてはどうか。

●事務局

来館していただいて、本来自由な使い方をしていただくのが図書館なのだが、その方の得意分野を地域に活かすとか、来られた方に何か少し地域に還元するような何かの仕掛けというか、そういう取組みができたかと考えている。

集会室やいろんな人のネットワークもあるので、そういったところから、ご自身の成果の発表とかにつなげて、それが地域に還元できるような仕組みづくりにしていけたらいいな、という話が出ている。

●委員

障害者の方と高齢者の方に共通して言えるが、来館をどんどんしていただきたいならば、施設をバリアフリーにしていくことがとても大事だ。コストの面もあるが、もっと工夫をしていく必要はないか。今もスロープはあるが長いスロープで、何か工夫できないのかと思う。

●事務局

それは大事な視点で、バリアフリーということは皆さんに使いやすい施設になるということで、現在も最低限は備えているが、その使い勝手などについては、実際に使われる側からのご意見もいただきながら、変えていくものは変えていくようにしていきたい。

●委員

お年寄りには本は重い。その重い本を持って移動するのは大変ということで、無理かもしれないが、たとえばカートとか、まっすぐ歩くのがむずかしい方へは、車輪付きカートを導入できるならした方がいい。本を借りる時に持って歩くことは、私達でも大変なので、利用者として来ていただくためには、そういうバリアフリーも必要かと思う。

●委員

高齢者のニーズは様々にあると思う。大活字の辞典がほしいとか、本の内容もリタイアに関するもの、就活に関するものなどいろいろあると思うが、ニーズを吸い上げるシステムについて、何か考えているものがあるか具体的に教えてほしい。

●事務局

そういったことで参考にしているものとしては、今回のようなアンケート調査等で、ご意見をたくさんいただいているので、具体的なところを検討するために参考にしていきたい。

●委員

中項目「7」のような高齢者、障害者、外国人へのサービスに長けている図書館があるなら、先進事例を研究し、取り込むということをしていったらいいのではないか。先ほどから出ている比較というのは、そういう意味も含めての話で、良いところは取り入れればいい。「学ぶ」は「まねる」と言う。まねることは、決して恥ずかしいことではないと思っているので、そういう視点をどんどん取り入れていったらいいと思う。

●部会長

バリアフリーという言葉が先ほどから出ているが、このことについて全くふれられていないのは、ちょっと違和感がある。バリアフリーといってもいろんな観点があると思う。WEBのアクセシビリティの問題もあると思う。いろんな課題が多いところだと思うので、ぜひ含めておいていただきたい。

●委員

朝10時から開館なので、10時前から高齢者の方がウロウロされていて、ちょうど出会ったのだが、高齢者の方が「本をどこから返すんでしょうかね」と言われた。「一緒にさがしましょうか」と入ってきたが、返却口のところに返却口と書いてある。でも、返却口までこないとポストの返却口がわからない。形として図書館の入口が少し引っこんでいて、入口が何か所もあるような雰囲気もあるので、分かりにくい。そういうところのバリアフリーについても考えてほしい。もう少し表のほうに、本日の返却は何時から何時までとか、そういうことがビジュアル化できたらいいと思う。バリアフリーの考え方もいろいろあるのだと、とらえてほしいと思う。

●部会長

次の項目に移りたい。時間の関係で、中項目「8」・「9」・「10」はいずれも、「市民との協働」が共通ポイントとなっているので、この3つを合わせて見ていきたいと思う。中項目「8」は、「地域の情報センターとして積極的に活動しているか」だが、内容的には「北摂アーカイブス」や「千里コラボ」などの協働事業が含まれている。それから中項目「9」は、まさしく市民との協働事業の推進であり、「しょうないREK」などが含まれているところである。そして中項目「10」は、市民団体・ボランティアの学習と活動の支援がポイントになる。いずれの項目についても結構なのでご意見をいただきたい。

●委員

市民との協働の中で、今後やっていきたい具体的な目玉というものがあれば、教えてほしい。

●事務局

先ほど少し申し上げた、高齢者を含む成人サービスに関わる何かの取組みができないかと考えている。内容については、市民協働という視点で、図書館からの一方的なものでなく、こんなことができるのではないかとのご意見も広くお聞きして取り組んでいきたいと思う。

●委員

では、今考えている核心的な取組みを、協働としてやっていこうというのは、具体的には今はないということか。

●事務局

今も既に、ここに示しているいくつかの協働事業がある。これらは一つ一つが図書館にとっては大きくて、しかも継続を前提として取組みをすすめているので、それは大事にしながらやっていき

たい。例えば子ども読書活動推進計画に関わる取組みもそうだし、個別のサービス名の付いたものも、現在あるものを継続しながら、今後新たなニーズに対応した協働事業は模索していきたい。

●委員

では、現在ある協働事業を継続しながら、その質を深めていきたいという風に考えているということか。

●事務局

ニーズに対応したサービスを進める観点からは、成人・高齢者サービスにつながる取組みがまだまだ不足していると考えているので、そのような視点で何かできないかと考えている。

●委員

中項目「9」で、今後の取組みのところに、「豊中らしい公共図書館の在り方につなげられるよう」というくだりがある。「市民と図書館が対等な立場で相互理解を深めながら協働することで、」
「ひいては豊中らしい公共図書館の在り方につなげられるよう、」というのは、良いキャッチフレーズなので、もっと具体的に書いてPRをした方がいいと思う。せっかく良いことをしようと思っているのに、ちょっと言葉が抽象的で、「豊中らしい」って何ですかと、またそういうところで損をしてしまうので、「豊中らしい公共図書館の在り方」というのをバンと出せるような、簡単な言葉を考えていただいて、もっとそれをアピールするように考えていただきたい。

●部会長

アピールがやっぱり下手なんですよね。そこを十分に具体的に検討していただきたいと思う。

●委員

アピールというのは、すごく大事だと思っている。

ご存じのとおり、本のデジタル化がどんどん進んでいて、我々も「自炊」といわれるように、本をデジタル化している。あるいは、本がデジタル化して売られている。いろんな会社がデジタルで販売しており、ダウンロードするとすごく安く読める。しかも何回でもダウンロードできる場所もある。そういう状況を見ながら、図書館の存在価値を高めていかねばならない。利用者を増やしていけないといかんというのが、さきほどのアピールにつながっていくのだが、ではどうするのか。

要は、「来てもらってナンボ」ということだ。建物がここにあるわけで、来てもらえるしかけ、ステージを用意する。異質な組み合わせ。本に関わることばかりやるのではなくて、異質なものとの関わりを持って、イベントとかを仕掛ける。たとえばお寺がライブをやるというのは最近よくある。要は、来てもらって知ってもらって、帰りに本を見てもらって、借りてもらう。何かそういうしかけも今後は考えていく必要があるのかなと思う。ということは、既存の概念にとらわれずに、何でもありみたいな、図書館だからこうあるべきだということは取っ払ってしまって、何でもいっぺんやってみようということも今後は必要なのかなと思う。図書館へ行かなくても、自分のパソコンや自分のデジタルデバイスで読めるわけなので、そういうことを意識していくこともこれから必要になってくると思う。

●部会長

なかなか難しいところで、きっかけとして非常に重要なご指摘だったと思うが、それがまた図書館の本質を揺るがすものであってはならないということもいえるのではないかと思う。そこをどう上手く企画していくかというところが、腕のみせどころだとも思う。

●委員

揺るがさないというところで、少し伺いたい。貢献できる質問になれば嬉しいが、図書館職員のことを書かれている。人材育成と研修に努めているということだが、図書館職員の専門性はどこにあるのか、教えていただきたい。

●事務局

図書館職員としては、まず人を知って、資料を知って、それをつなぐ方法を知っている、簡単に言えばそういうことだと思っている。「人を知る」とは、利用者される人、そこにプラス地域の実情を知るということで、資料のことを知って、人と資料を結びつける方法を知っていること、的確に必要な情報を必要な人に届ける、そういうことが図書館員の専門性につながっていくと考えている。

●委員

もうひとつ伺いたい。中項目「9」は評価ランク「3」となっている。とするならば、今それが専門性と伺ったが、その専門性は、現在は高いと考えているか、それとも低いと考えているか。

●事務局

低い高いと一言で表現するのは難しい。図書館は、こういう評価システムをご覧いただければお分かりいただけると思うが、いろんな切り口があって、本当に様々な方が利用される。図書館の最大の特徴は、どなたでも使えるということ。ゼロ歳の赤ちゃんからお年寄りまで、年齢に関係なく資格に関係なく、誰でも使っていただける施設であることと考えている。そういうなかで、幅広いサービスを提供する。しかもそれは資料・情報を届けるということをも基盤にしたサービスだと思っているので、いろんな専門性がその都度その都度求められるので、やはり充分でないところもあり、ここは頑張っているというところも混在していると考えている。

●委員

「職員はその役割を深く自覚し、経験を職員間で共有・蓄積・継承し」ということで、人材育成に関しては専門性を高めていくというところがあるかと思う。ではこの専門性とは何か、何を高めていくのかという具体をもう少し評価に活かしていただけたら、もう少し核心的な部分というのが出てくるのではないかと思う。

●部会長

本当に司書の専門性というのは、かなりの長期的な時間軸の中で考えていかねばならないと思う。今、委員がおっしゃったように、では何をどう高めていくのかということも、非常に重要であるし、一人の人が何をどう高めていくかということと同時に、複数の人がそこに働いているわけなので、

その中でどうそれを継続していくのか、分担をしていくのか、それを維持していくことができるのか、一人抜けてしまったらそこがポコッと抜けてしまうようでは困るので、どう継続していけるのかということ、やはり計画的に考えていただく必要があるのかなと思う。

●部会長

そろそろ時間が迫ってきたが、みなさん各項目について、たぶん言い残されたことがまだたくさんあると思う。次回もう一度検討する機会があるので、それまでに今日言い残されたこと、また新たに思いつかれたことでも結構ですので、図書館に集約してそれを整理して次回皆さんに事前に配布して、再度ディスカッションをしたいと思います。今日言い残したことは、3月5日までに図書館へお願いしたい。

今回検討しなければいけないことは、そういう抜けている視点を指摘したり、活動に関して提案したりということだが、それと同時に指標自体についても、この指標が本当に適切かどうかということも、検討しなければいけないことで、今回それには触れることができなかつたので、次回はそれも含めて検討したいので、ご協力をお願いしたい。それでは、その他について事務局からどうぞ。

●事務局

今回は3月16日開催の予定となっている。

本日は「子ども読書活動フォーラム」を、このあと午後1時半から4時までローズ文化ホールで開催しますので、ご参加をご希望される方は事務局の方へ申し出てください。これは、「とよなかブックプラネット事業」関連の取り組みで、学校図書館システムがこの4月から本格稼働することになった。学校間の横断検索が可能になったりするというように、情報のネットワークについても環境醸成が整うことになった。それを活用・推進していくかはこれからの課題になってくるが、その啓発の取組みとして実施するものである。

●部会長

ただ今の報告について、ご質問があれば出していただきたい。

●委員

「とよなかブックプラネット事業」は、我々も見たいと思えばみることができるものか。事業のアウトラインのようなものが分かればと思うが。

●事務局

図書館ホームページにも掲載しているが、一昨年に概念設計、昨年は詳細設計を行い、今年度は詳細設計に基づいて行っているもので、詳しくはそちらをご覧ください。

●部会長

それでは終了の前に、傍聴者から、何か感想があればいただきたいと思うが。

●傍聴者

事業の広がりを感じることができるとともに、それに対する真剣な話し合いが行われて、とても

よかったと思うが、広報とよなか2月号に、子育て子育て支援の特集が組まれている。図書館はブックスタート事業を始め、子育て子育てに関しての事業の展開をずいぶんされていると思うのに、まったく載っていなかったことに驚きを覚えた。これはどういうことなのか、しっかり考えていただいて、今後はこういうことがないようにしていただきたい。外部へのPRが弱いのではないかと大変気になった。

●傍聴者

吹田との比較の話が出て、住みたくなるような街にしていくことが必要だというお話があったが、本当にその通りだと思う。財政が厳しいなかで、若い世代の方がどんどん入ってきてくださって、ここへ住もうと思うということが、街にとってもすごく大事なことだと思う。そういうなかで、私自身子ども読書活動推進計画に関わってきたが、その部分はすごく力を入れているし、学校図書館にも力を入れているし、教育面でも、教育文化都市として頑張っていると思う。そのなかで、図書館はすごく頑張ってやっていると思うので、もっとPRしてほしい。吹田さんも頑張っておられるけど、豊中はこういう形でここがすごく良いですよと、吹田にも箕面にも池田にも負けませんよ、近隣より良いですよと、その辺はアピールできるところをどんどんアピールしてほしい。力を入れて図書館もやってきているので、図書館を看板に人を集められるようにしてほしい。そういうことを、図書館だけじゃなく行政全体として、やっていただけたら良いなと思う。こういう評価の取組みも、他の分野の報告書などもいろいろ見るが、今日のこの部会の議論のように、つまこんでされているのだろうか。これだけでも、図書館は胸を張って、これだけやっていると言えるんじゃないかという印象をもった。

●部会長

ありがとうございました。非常に力強いエールをいただいた。この応援の声も受けて、しっかりやっていきたいと思う。
それでは、委員の皆さまお疲れ様でした。以上で第二回豊中市立図書館協議会図書館評価部会を閉会する。